

# 令和7年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

本校の目指す学校像	<p>日本大学の建学の精神を礎とし、次の方針を掲げ、21世紀にふさわしい充実した学園生活を目指す。</p> <p>(1) 一人ひとりの志を大切に、その実現を支援します。  (2) 心身ともに健康でたくましく気品ある人を育成します。  (3) 基礎学力の充実に徹します。  (4) 積極的な進路指導に力を入れます。  (5) 国際化・共生化に対応できる能力開発に努めます。</p>
-----------	---

本校の特徴および課題	<p>本校は、日本一のスケールと多様性や可能性を持つ総合大学、日本大学の附属高校であるという安定した基礎の上に、生徒一人ひとりの志を尊重し、その成就を支援する3コース5クラス制を敷いている。各コースの特色を活かして、1. 学力向上に関する取り組み、2. 進路指導に関わる取り組み、3. 学校生活に関わる取り組み、4. 生徒会・部活動に関わる取り組みなどを連携させ、生徒一人ひとりの目標にしっかり答えられるよう、指導力の向上に継続して努力したい。</p>
------------	--

令和7年度取組結果	<p>全学年において新学習指導要領での指導が展開されることとなり、大学入学共通テストの傾向に合わせた指導や総合型・学校推薦型選抜の積極的な活用など、生徒に合わせた指導を実施した。今後も文部科学省・大学入試センターから提示される方針に注視し、時代に即した教育を実施していきたい。日本大学へは付属高校推薦入学制度への対応が機能している。日々の教育内容については、表現力を高めるためのアクティブラーニングの実践や、生徒全員がiPadを所有することとなったICT教育など、様々な面で教育活動のレベルアップが図られている。これらの教育活動の成果として、進路実績も日本大学への進学者数は目標を達成し、国公立大学への合格実績も成果を上げた。施設面では、柔道場および剣道場にエアコンを新設し、経年劣化していた一部教室のエアコンも取り替えた。また、全教室のプロジェクターを取り替えるなど、時代に即した教育環境の充実に図られた。</p>
-----------	--

目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況	<p>A：取組目標が達成された      B：目標はおおむね達成された  C：課題を多く残している      D：成果が出ていない</p>
-----------------------	---

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育活動(教務)	①目標の設定について	新クラス設置における円滑な業務運営	B
	②活動の実際について	R7年度より、グローバルスタディコースでは2年次より理系クラスが、特別進学コース3学年では私立文系クラスがスタートした。本時間割の作成や授業実施教室の割り振り、定期テストの実施などについて、教科主任や学年主任等と連携を取りながらミスなく対応することができた。次年度以降も引き続き、運営上の課題に対して適切に対処していきたい。	B
	③活動の点検について	年度当初の時間割の設定において特に新たなカリキュラムが円滑に実施できるように最善の注意を払った。また、年度途中においても各コース並びに各教科主任と連携し懸念事項について適宜修正を図ってきた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教科指導(教務)	①目標の設定について	教務部の組織の充実	B
	②活動の実際について	教務部の業務内容は多岐にわたるが、内容によって負担量は異なる。今年度は負担の分散を意識し業務の適切な割り振りを通して改善された点があった。一方で、業務に不慣れな部員による遅滞や不備も見受けられた。	B
	③活動の点検について	昨年同様、テスト時間割作成や教科書業務といった負担量が多い業務については、従来以上に複数の担当を充て負担の分散を図ることができた。また、引継ぎ事項については文書化し、担当者が変わっても滞りなく運営することを意識した取り組みを始めることができていた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
学校生活への配慮 (生徒指導)	①目標の設定について	①あいさつの励行 ②端正な服装頭髪の徹底 ③いじめの根絶 ④社会のルールやマナーの遵守	A
	②活動の実際について	①あいさつの励行：こちらから挨拶をすればしっかりと返事を返してくれるが、生徒自ら進んで大きく元気な声で挨拶する生徒がやや少ないと感じている。学校生活の様々な場面を指導の機会と捉え指導を継続し、あいさつをすることの大切さを理解させ、活気のある学校作りに貢献していく。 ②端正な服装頭髪の徹底：本校の生徒心得を意識して、身だしなみしっかり整えている生徒が多くおりおおむね良好である。一方で、コースや学年間で温度差なく同じスタンスでの指導を行うことにやや課題が残る。 ③いじめの根絶：いじめとなりそうな事案を早期発見するように心がけ対応している。SNS使用時のルールや情報の発信方法など繰り返し指導を行い、さらなる情報モラルの醸成に努める必要がある。また、生成AIを使ったディープフェイクなどの悪用についても、全校集会などで注意している。 ④社会のルールやマナーの遵守：苦情については、学校周辺の道路や近隣店舗駐車場での送迎、登下校時に横に広がって歩くことや歩きながらのスマートフォン使用、一部生徒の常磐線車内での傍若無人な振る舞いなどがある。しかし、多くの生徒はきちんとしており、トラブルやクレーム等も年毎に漸減している。	B
	③活動の点検について	生徒指導部会議で問題点の共有を踏るとともに、登下校時における立哨指導や通学安全週間での指導や郊外指導を継続してマナーの向上に努めていく。また、朝の打ち合わせや生徒指導部週報を活用して、先生方と情報を共有し、先生方の言葉で生徒への指導や講話を行う。保護者宛メール文書にも現状の問題点など記載し理解、協力を継続的に促す。特に、自家用車による送迎は保護者へのメール配信を利用して、更なる理解と協力を促していく。いじめの根絶については、いじめ防止対策室・教育相談室・保健室との連携を密にして根絶に取り組んでいく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
生徒会・部活動 (生徒指導)	①目標の設定について	生徒会、常任委員会、部活動において、生徒が主体的な活動ができるようにする。	B
	②活動の実際について	【委員会活動】 定例委員会を開催し、活動の記録を残せた。 【クラブ活動】 運動部・文化部ともに活発が活動がなされるよう予算配分を深慮し、活動結果がスムーズに広報できるよう連携を強めた。 【応援活動】 諸感染症に配慮しつつ体育館に全校生徒を集め壮行会を計画・実施することができた。応援部、吹奏楽部、チアリーディング部をまとめ各大会において応援を盛り上げることができた。 【取り組み結果】 生徒会役員が牽引役となり、生徒が主体的に活動できるよう心掛けた。	A
	③活動の点検について	生徒会、常任委員会、部活動の各担当教員によるレポート内容を確実に把握し、生徒への支援につなげる。情報発信にも努めたい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	①日本大学付属推薦入試への適切な対応 ②国公立大学、難関私立大学の合格者数のアップ ③キャリア教育の充実 ④調査書、進路統計、各種調査報告等への適切な処理 以上の目標を掲げたが、概ね良好に運営でき、着実に成果を挙げた。	A
	②活動の実際について	①日本大学本部及び各学部との良好な関係構築に努め、迅速かつ正確に情報を収集するとともに、推薦基準や受験手続等に関する情報を遅滞なく関係部署へ周知し、共有することができた。また、日本大学学校推薦型選抜の仕組みを解説した動画やパワーポイントを作成し、父母と教師の会支部会や保護者会等を通して、保護者への周知を図った。推薦者の選考や推薦審査会には、学年や基礎学力到達度テスト対策室、通信制課程と連携し、指導方針や情報を共有し、生徒一人一人にとって満足度の高い進路実現に努めた。結果として全日制課程の日本大学学校推薦型選抜および総合型選抜等の合格者は、四年制大学269名、専門学校1名の計270名に達した。通信制課程からも、6名が基礎学力選抜を利用して日本大学への進学を果たすことができた。 ②国公立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜では、東北大学1名、九州大学1名、お茶の水女子大学1名をはじめとし、筑波大学に10名、茨城大学に10名、茨城県立医療大学に1名が合格し、国公立大学合格者の合計は32名となった。難関私立大学においては、2/10時点で、早稲田大学3名、上智大学2名、東京理科大学5名、国際基督教大学1名、学習院大学5名、明治大学2名、青山学院大学1名、立教大学7名、中央大学9名、法政大学5名等、多くの合格者を輩出した。医学部医学科では、北里大学と金沢医科大学、岩手医科大学に合格者を出すことができた。 ③医歯薬医療系講演会、日大出張講義3回、法曹界講話を予定通り実施した。また、一日看護体験や日大文理学部体験授業、日本大学工学部や生産工学部オープンキャンパスへの積極的な参加を促し、生徒の進路意識の高揚に努めた。高大連携の一環として、法学部の科目履修生として2名の生徒が受講し、単位修得を果たした。進路指導部情報サイトを通して、各種説明会や講演会、体験会などの情報を遅滞なく発信した。父母と教師の会各支部が主催する進路講演会等に出席し、保護者に対する進路情報の提供に努めた。 ④調査書の作成に当たっては、令和7年度大学入学者選抜実施要項の見直しに伴い簡素化された新しい指導要録の様式に合わせて、記載内容の見直しと周知徹底を行った。また、スケジュールを精査し作成に余裕を持たせたことで、教員の負担軽減につながった。教員が作成した推薦書や調査書、生徒が作成した志望理由書等については、データを集約、蓄積していく作業を進めている。進路指導資料や到達度テスト結果分析等においては、掲載情報を点検し、内容を充実させることで、担任の進路指導に活かせる資料の作成に努めた。また、特進コース推薦入試合格者の合格体験記を継続して作成し、後進の意識高揚に役立てた。	B
	③活動の点検について	①日本大学学校推薦型選抜方式の出願方法や合格後の手続き方法が年々変化しているため、確認不足などからミスが発生しないよう注意する。生徒・保護者の志望学部・学科などの確認を確実にし、若手担任教員への支援と情報提供にも引き続き努力する。 ②国公立大学、難関私立大学合格者数増加のため、推薦入試に対する指導から、その内容や方法の確認を怠らぬようにする。日本大学のN方式については、付属のメリットとして一般受験の生徒についても指導を確認する。 ③生徒対象の講演会は生徒の事後レポートを点検することとどまらず、ポータルサイトに蓄え、推薦資料としての活用を備えたい。父母と教師の会の各支部から依頼を受けている進路講演会は保護者に周知できるように動画内容を意識していく。 ④調査所等の書類形式についても、教務部・情報処理室との連携を確実にして準備を進めたい。進路統計、各種調査報告等への適切な処理・運営については、さらに改善を図っていく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
体育施設	①目標の設定について	教職員・生徒の安全管理及び体育館・体育施設の管理の徹底	B
	②活動の実際について	体育館・グラウンド・霞ヶ浦、桜グラウンドについては、事務局と連絡を取り、老朽化で危険な箇所を確認して直ちに補修を行った。また、老朽化だけではなく、ボールがぶつかったり、生徒がぶつかったりして、破損するところも同様である。しかし、「壊れたら直す」の前に「壊れないように」使用する指導も行う。常に安全管理ができるように年間を通して見回った。右靱桜グラウンドは、芝生が剥けている箇所か教員室あり、コースも砂量の違いのせい、全てが均等になっていない。芝生がはがれると足をとられ怪我をしてしまう可能性があり、砂量が異なると滑ってしまう可能性もあるため、季節もみながら年間を通して整備できるように点検していきたい。	B
	③活動の点検について	事務局担当者との連携をして、年間を通して施設を見回り確認管理をする。危険なところが見つかれば、直ちに事務局担当者へ連絡して修理を依頼し、怪我や事故のないように安全管理を徹底していきたい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
保健衛生	①目標の設定について	(1) 環境の保健安全の確保 (2) 生徒及び教職員の健康保持と健康管理能力の増進	B
	②活動の実際について	・年間計画に基づいて、生徒教職員の健康診断や検診を実施し、その結果により専門医への受診を保健室から勧めた。 ・教育相談部や保健室で得られた生徒情報を学校全体で共有し、生徒対応に活かした。 ・教職員のストレスチェックやカウンセリングを行い、心的負担の軽減を図った。 ・感染症について、学校全体で情報を共有し、さらに対策予防を強化した。 ・衛生委員会において問題点を話し合い、学校の安全・安心のために施設・設備の改良改善を重ねた。 ・生徒の心身の発育発達を促す環境づくりに配慮した。	B
	③活動の点検について	・カウンセラーと養護教諭と連携して、教員に対するカウンセリングの案内周知等をしつかりやることができた。 ・今年度はレスリング場にエアコンが設置され、教員と生徒の安心安全を確保することができた。また、産業医の先生から教職員の心身の健康管理について助言をいただいた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	「生徒の学校生活への適応と、教員の不適応生徒への対応を支援する」という目標および、そのための①～⑩の取り組み方策の設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	①新入生に対する「教育相談ガイダンス」は計画通り実施することができた。構成的グループエンカウンターにおいては、新入生の仲間づくりのきっかけとなった。学年、担任による生徒の理解を深めることに寄与できた。 ②2年生は教育相談部が提示したエクササイズを中心に、自教室にてグループエンカウンターを実施しており、仲間づくりのきっかけとなった。 ③「学校不適応調査」については、担任からの入力内容を元に、生徒の状況を把握し、対応することができた。 ④「高校生活に関する調査」については、教育相談に関する設問に留意して、学年の協力のもと生徒の状況を迅速に把握し、対応することができた。なお、調査の回答で気になる生徒をリストアップし、コース・学年主任および担任とその情報を、調査ごとに共有した。 ⑤カウンセリングに関しては、生徒や保護者の希望で実施したり、担任や教育相談部員、カウンセラーからの必要に応じて実施したりするなど、随時実施した。電話相談やリモートでの相談も実施した。なお、教員のカウンセリングも、希望に応じて実施している。 ⑥新入生ガイダンスブックに「教育相談体制」を掲載したり、保護者会資料に教育相談に関する内容を提示したり、本校HPに「スクールカウンセラーだより」をアップしたりするなど、保護者への周知徹底を図ることができた。 ⑦「特別支援教育としての個別指導計画立案」については、今年度は該当するケースがなかった。 ⑧「スクールカウンセラーとの連携による担任支援」については、常に情報を共有し、生徒・保護者に対応する担任の支援をすることができた。 ⑨「定期的な教育相談部会開催による教員間の情報共有」については毎週月曜日と木曜日に教育相談部会を設定して、各コース・学年からの情報を教員間で共有し、不適応事案に対して早期対応することができた。 ⑩「スクールカウンセラーの来校日を原則毎日とし、上記の支援体制を強化」については、来校日が毎日のためスクールカウンセラーとつながりやすい環境にあり、カウンセリング内容についてはできるだけ教員間（場合によっては保護者）で共有し、担任や保護者の支援につなげることができた。	A
	③活動の点検について	担任が随時入力できる「学校不適応調査」の内容や保健室を訪れる生徒の様子などを共有し支援策を検討する教育相談部会を原則週2回実施し、生徒の状況変化への対応や、新たに不適応傾向が見られる生徒への早期対応、生徒対応に悩む教員の支援などに繋げてきた。部会を継続的に行うことで、それまでの支援が適切であったか否かを点検する機会とすることができた。また、こうした内容は、年6回「要支援生徒リスト」としてまとめ、学年主任や管理職とその都度を共有した。一方で、考え方が多様化する中で本校の通信制や通信制高校への転籍・転学を早期に判断するケースが増えており、学校不適応生徒に対するより一層のスピーディーな支援が今後の課題である。また、児童相談所から学校への問い合わせが近年増加しており、家庭内での生徒を取り巻く環境が適切でないケースがあることを実感させられる。社会全体で子どもを守るという観点から、場合によっては保護者に対して毅然とした立場を取るべき学校の役割を再認識する必要があると考える。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	「本校いじめ防止基本方針に基づいて『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取り組みを実施し、学校を挙げて『いじめ根絶』の目標を達成する。」という目標設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	(1)「未然防止」について 生徒集会におけるいじめ防止講話については、予定通り、毎学期始業式にいじめ防止対策室より行った。その時々時事問題や生徒の実状を鑑みて話題を選定し問題提起をした。4週に一度、生活目標として「いじめの根絶」を掲げて担任が講話を行う取り組みは、今年度も実施できた。各クラス担任が、クラスや学年の状況に併せて適切な講話を行ったものとする。1年生に対するネットモラル勉強会、1・2年生に対する構造的グループエンカウンターは、教育相談部と連携し学年の協力しながら例年通り実施できた。 (2)「早期発見」について 年度初めの教職員会議で、全教員に対して「土浦日本大学高等学校いじめ防止基本方針」を提示し確認するとともに、「いじめ早期発見のためのチェックリスト」の活用を呼びかけた。いじめ調査は、計画通り年3回学期毎に行った。また、担任が保護者面談の機会にいじめの聴き取り調査を行うとともに、教育相談部やカウンセラーとも連携し早期発見に努めた。 (3)「適切な対応」について いじめ調査の結果や生徒・保護者から相談があったトラブルについては、すべていじめ防止対策室全体会議で取り上げ、管理職へも報告した。いじめが疑われる案件については、特定教員の抱え込みを防ぐとともに客観的事実に迫れるよう複数教員で聞き取りや調査にあたった。今年度のいじめ認知件数は5件（昨年度は0件）であり、いずれも1学年で発生した案件であった。当該学年生徒に残された高校生活に鑑み、学年全体でいじめ根絶の雰囲気を作り強めていく必要がある。 (4)「再発防止」について 発生してしまったいじめにおいては、加害生徒に対して長期に亘る厳しい指導を行うことで反省を深めさせ、再発防止に努めている。さらに、仲間内での歪んだ価値観や自己中心的で安易な振る舞いが問題発生背景にあることを教員間で共有し、指導に当たることはいじめ防止に努めている。 (5)教員の共通理解について いじめ防止対策室長および議長が毎月の職員会議においていじめ防止の話を行うことで、教員全体の情報共有と意識向上を図った。こうした取り組みの継続により教職員全体にいじめ防止の意識は浸透しているが、それが「いじめゼロ」に繋がるようさらに効果的な取り組みとしていく必要がある。	B
	③活動の点検について	いじめ被害に遭った生徒や保護者が最初に相談するのは一番近い教員である担任や顧問であることが多い。いじめ問題は全教員の問題である」という認識を共有し、教員個々が対策室と同じスタンスでいじめ問題を認識できているかを自己点検する契機として、毎月の教員研修を実施することができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
図書	①目標の設定について	<1>新書の充実を努める <2>タイムリーな展示コーナーづくり、わかりやすいサイン（分類表示）を行う 上記の目標設定については、適切なものであったと考えている。 蔵書の確認をスムーズに進めながら、図書館の魅力アップを目指したい。	A
	②活動の実際について	<1>新書の充実を努める ①書店ごとの新書本ランキングを参考に、世相を反映した新書、話題の新書を揃えた。 ②授業や探究学習のテーマに関連する新書を重点的に購入し、利用者に提供した。 ③新聞記事で時事を確認し、社会情勢や国際関連分野の新書を選書し、購入した。 ④新書を手取るきっかけづくりとして、毎年発表される新書大賞受賞作を購入し、展示コーナーにて紹介した。 上記取り組みにより、今年度分の新書は一定の充足が図れた。 幅広いテーマでの新書充実を図るため、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。 <2>タイムリーな展示コーナーづくり、わかりやすいサイン（分類表示）を行う ①コーナーづくりにおいては、世界情勢や国内の時事・話題に関する資料、学校行事に関する資料、ノーベル賞関連本、各文学賞作品を展示した。 ②旬の情報を得ることに努め、早期の購入、装備を心がけ、タイムリーに展示を行った。また、季節ごとのクロス替えや小物飾りで視覚的にも楽しめる図書館づくりを努めた。 ③階段踊り場に設けた図書委員会のコーナーでは、図書委員作成のポップを活用し、図書の紹介を行った。また、文化祭時に取り組んだ「青春（アオハル）の本」も展示した。同年代の薦める本、興味深いポップの魅力で、新しい本との出会いのきっかけづくりを行った。 ④書架サインについては、図書委員とともにポスター作成を計画している。引き続き進めたい。	A
	③活動の点検について	<1>新書の充実を努める ①社会情勢や国際関係、探究学習に必要な新書を補充する。 ②受験に頻出されるテーマをリサーチし、該当分野の新書を充実させる。 ③進路決定後に大学から課題として出される新書、および関連するテーマの本を補充する。 ④話題性の高い新書をピックアップして展示。委員会の広報誌で紹介する。 <2>タイムリーな展示コーナーづくり、わかりやすいサイン（分類表示）を行う ①分野ごとに、わかりやすい内容のサインを作成し、書架に表示する。 ②貸出が多い小説は文学の分野であり、他にも詩やエッセイ、ノンフィクション、古典文学や外国文学作品があり、それぞれに魅力が異なる。これらのピックアップ展示をし、ジャンルの幅を広げるきっかけづくりをしたい。 ③時事に関する本、話題の本、お薦めの本など、利用者が興味を惹く内容の本も展示する。 ④図書委員会で作成したポスターやポップを活用し、好奇心を誘う。 ⑤展示書架だけでなく、図書館入り口、各階の踊り場、カウンター等の目につきやすい場所にコーナーを設置し、定期的に内容を更新する。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 (情報入試)	①目標の設定について	<p>茨城県及び千葉県においては少子化の影響により中学生人口が減少傾向にあり、今後も志願者確保に向けた継続的な対策が必要な状況である。また、成績上位層の県立中高一貫校への進学や、県立高校の倍率が大きく上昇しない傾向も見られ、本校としても第一志望者の確保が重要な課題となっている。</p> <p>このような状況を踏まえ、単願推薦による受験者の増加を重要な目標として設定した。そのため、早期に実施している学校公開イベントについて、受験生及び保護者のニーズに合わせた内容の充実を図り、本校を第一志望とする受験生の確保につなげていく。</p> <p>また、併願受験者に対しては、従来より実施している個別面談の周知をさらに進め、より多くの受験生が優遇制度を活用できるよう働きかけを行う。加えて、状況に応じて単願推薦という選択肢も提示することで、志願者数の増加を図る。</p> <p>さらに、国内の学習塾への訪問については、既存の連携塾に加え、新規開拓にも積極的に取り組み、広報活動の強化を進める。</p> <p>海外入試においても、同様に早期から実施している学校公開イベントの周知を徹底し、志願者の増加を目指す。</p>	A
	②活動の実際について	<p>年間を通じて、受験生及び保護者に対して本校の教育活動及び学校生活を具体的に伝えることを目的とした広報活動を実施した。</p> <p>学校公開イベントにおいては、校内見学に加え、部活動見学の機会を設けることで、学校の日常の様子を伝える機会とした。また、各コースの授業見学や総合的な探究の時間の見学機会を設け、本校の教育内容への理解を深める取り組みを行った。</p> <p>さらに、部活動体験会を実施し、本校の部活動の特色や学校生活の一端を伝える機会とした。秋には入試説明会を開催し、入試制度の詳細説明を行うとともに、併願受験者を対象とした個別面談を実施した。</p> <p>加えて、部活動見学希望者への随時対応や、定期的なメールマガジン配信により、学校行事や入試情報等の継続的な情報発信を行った。</p>	A
	③活動の点検について	<p>本年度の広報活動については、年間計画に基づき概ね計画通り実施することができた。学校公開イベントや学校見学会、部活動体験会等を通して、本校の教育内容や学校生活の様子を具体的に伝える機会を確保することができた。</p> <p>特に、各コースのカリキュラム説明については、学校見学時だけでなく、秋の学校説明会においても実施することができ、本校の教育内容の理解促進につながった。また、入試前後に実施した各コース単独の説明会やイベントについても、多くの参加者を得ることができ、本校への関心の高さを確認する機会となった。</p> <p>さらに、授業見学や部活動見学、個別相談等の実施により、受験生及び保護者の個別の関心やニーズに対応した広報活動を行うことができたことは、本校理解の促進という点において一定の成果があったものと考えられる。また、学習塾との連携やメールマガジンによる継続的な情報発信についても、志願者確保に向けた基盤づくりとして有効であった。</p> <p>一方で、少子化の影響による受験生人口の減少が続く中、より早期からの接触機会の創出や、本校の特色をより明確に伝える広報活動の工夫が今後の課題である。また、イベント参加者を出願につなげるためのフォロー体制のさらなる充実も必要である。</p> <p>今後も、受験生及び保護者のニーズを踏まえた広報活動の改善を図り、本校志願者の安定的な確保につなげていく必要がある。</p>	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (教学)	①目標の設定について	<p>「調和の精神を尊ぶ青年が育つ、活気あふれる進学校」を目指す。</p> <p>A) いじめ防止対策推進、B) 国公立大学受験対策推進、C) 基礎学力到達度テスト対策推進、D) 新学習指導要領・大学入試改革への対応、E) ICT教育推進などによる</p>	A
	②活動の実際について	<p>A) いじめ防止対策室を中心に、教員向けの研修を適宜実施している。「いじめ早期発見のためのチェックリスト」や「いじめに関する校内研修ツール」を活用し、全教員がいじめのない学校づくりを意識できる環境を整えている。B) 常に大学入試に係る最新の情報をチェックし生徒に還元することで適切な進路指導につなげている。東京大学、筑波大学をはじめとした国公立大学への進学指導を中心に、近年は難関私大の合格実績向上に向けた取り組みの充実を図っている。C) 付属推薦制度利用による日本大学合格者数の向上を意識した取り組みを充実させることができた。D) 新学習指導要領が求める、知識偏重から思考力重視の流れを意識し、日々の指導の中で、探究心を育む指導を進めることができた。キャリア教育、大学の出張講義、探究型インタレストラーニング等の取り組みを充実させることができた。E) 教科指導面だけではなく、生徒会活動や学校行事等のあらゆる場面での活用が見られるようになった。適宜、教員向けの研修も実施し、マナー教育を進めることができた。</p>	A
	③活動の点検について	<p>どの目標に対しても、“PDCA”のサイクルを常に意識し、点検と改善に努める。</p>	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (事務)	①目標の設定について	①予算編成(配分)方法の検証 ②教育環境の充実・維持 ③諸規程の見直し	B
	②活動の実際について	①恒常的な光熱水費の値上がり、消耗品・教材費・修繕費・委託費・施設設備等に及ぶ物価上昇のなか、教育活動が円滑に行われるよう予算執行することができた。 ②熱中症ゼロを目標に、部活動のみならず授業で使用する第1・第2アリーナ・集会室、柔道場・剣道場と順次実施してきた総合体育館空調設備改修工事は、最終となるレスリング場(合気道場を含む)空調設備を整備した。また、経年劣化が進んでいたテニスコートについて、大幅な改修を行った。ICT教育については、教職員用パソコンを授業及び校務でより活用できるノート型に更新し、その拡充を行った。 ③令和7年度に私立学校法の大幅な改正が行われ、新寄附行為に基づいた学校法人の運営を行った。また、近年の物価高騰による教育研究経費・管理経費の増加、今後進んでいく校舎等の経年劣化や変化の早い教育環境の整備、優秀な教職員の確保など、学校を取り巻くこの大きな課題を解消するため、令和8年度以降に向けた納付金に係る学則変更及び特待生制度の改定を行った。	B
	③活動の点検について	①少子化の進行、物価高への対応など社会的な変化があるなか、予算編成方法の検証と将来に対する計画立案が重要となっており、決裁による予算計画の見直し、合見積書徴取により安価な物品の購入するなど、予算を随時見直し執行した。 ②教育環境の充実を図り、生徒が快適に学校生活を送ることができ、学びやすいと実感する整備、また、生徒の安全を第一義に考えた必要な施設設備の整備を、優先的に取り組む方針のなか、熱中症ゼロを目標とした総合体育館空調設備設置工事は最終となるレスリング場空調設備を整備し、経年劣化が進んでいたテニスコートについて、大幅な改修を行った。ICT教育については、教職員用パソコンを授業及び校務でより活用できるノート型に更新し、その拡充を行った。 ③今後も引き続き、諸規程全般について、社会的な要請、学校運営の現状等にあった形で変更が必要な内容を定期的に検証を行っていく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
庶務	①目標の設定について	①行事計画の見直しと健全な部署組織の構築 ②父母と教師の会および同窓会の活性化。 ③防災計画の見直しと防災意識の醸成。	A
	②活動の実際について	①教員研修会において、式典と避難訓練のあり方について改革案を検討した。これを元に、卒業式での送別の歌の変更、入学式後の歓迎イベントの改善につなげることができた。また、避難訓練の日程の見直しも図った。 ②昨年度よりも各支部での進路説明会や研修会が活性化され、教員と保護者との接点が増えた。桜華祭では全12支部による単独出展となった。また、制服バザーや研修旅行、全国大会応援などの活動も計画通りに実施することができた。 ③外部講師を招いた講演会で、災害時における迅速な避難の必要性について全教員が学んだ。これにより、避難訓練の重要性を改めて理解し、これまで以上に緊張感を持った避難訓練を実施することができた。	A
	③活動の点検について	①各行事後に各係毎に意見をもらい、準備の効率化につなげられたかどうか引き続き点検していく。また、定期的な部会の開催を確認していく。 ②三会長との密な連絡と内容の確認していく。 ③施設の点検等を事務局との連携し進めていく。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
総合進学コース (進学クラス)	①学習指導	各学年ともに、通年で実用英語技能検定に向けた対策講座を開講した結果、準2級以上を取得した生徒が増加し、進路実現や資格取得に対する意識の高揚を図ることができた。 1年生：予習→授業→復習の学習スタイルを身につけさせ、普段の授業やその後の取り組みが大切であることを意識させることができたため、授業や課題に対する取り組みは概ね良好であった。定期考査前に目標を早めに定めることで計画して学習することの重要性を説くとともに、朝学習や朝テストの実施、週末課題を通して学習習慣を確立することができた。 2年生：昨年度より、授業開始1分前着席の徹底やタブレット使用規則の遵守、家庭学習の習慣化を継続指導している。今年度は、朝のSHRを利用した古文単語テストや英単語テストに加え、数学のプリント学習を追加した。長期休業中の課題についても、各教科と連携して提出期限を細分化し、締め切り直前に過重負担とならないように心がけた。また、基礎学力到達度テストに向けた学習会を長期休業中に実施した。 3年生：1年次より定期考査や各模擬試験の前に期間限定で朝学習を行ってきたが、今年度より基礎学力到達度テストを目標として通年での実施とした。各クラスや個々によって取り組み状況に差があったことは残念であったが、おおむね良い緊張感を持って取り組むことができた。放課後や夏季休業中の課外授業については生徒が積極的に、また自身の課題をきちんと自己分析し、必要に応じた取り組みを行うことができた。日々の基礎学力到達度テストに向けた取組みが結果に反映されたと感じる。	B
	②進路指導	1年生：進路探究ワークを活用して自己を理解し、社会とのかかわり方を考えたり、今までの経験を振り返ったりしながら様々な観点から文理選択を考え、これからの進路について考えることができた。また、生徒の考えを確認するために、定期考査や実力テスト、進路適性検査などを活用して定期的に二者面談を実施。様々な角度から進路についての助言を行い文理選択へつなげるとともに、卒業生社会人講演会やオープンキャンパスへの参加から学問の内容や研究分野を考察し、法曹界講話や日本大学出張講義を通して学問への視野を広げることができた。 2年生：進路志望もある程度定まってきた中で、日本大学の出張講義だけでなく、学術的な探究活動を行ない、学問に対する意識の醸成を行なった。年3回以上の二者面談や三者面談を通して、生徒一人ひとりの希望や適性を掘り下げていくことができた。 3年生：志望理由書や小論文指導を通して、自らの関心事項について改めて理解を深めた。また、学年全体で面接指導や進路指導に関わることで、進路について幅広い視野や意見を持たせることが可能となり、日本大学への付属推薦や指定校推薦など、推薦制度を活用して大多数の生徒が12月時点で進学先を決定することができた。結果、日本大学への進学者は、241名(79.0%)、他大学への進学者では、学校推薦型選抜で、東京理科大学創域理工学部1名、中央大学経済学部1名、明治大学商学部1名、法政大学デザイン工学部1名、立教大学経済学部1名、一般入試で、茨城大学工学部1名、学習院大学理学部1名などとなった。一方で、面談を通して一般受験の厳しさと学力などについて話をしてきたものの、本人の強いこだわりで一般受験に臨んだ生徒がおり、その様な生徒はなかなか希望する結果が得られていない。無理強いはいできないが、日本大学への進学にどのように目を向けさせるかは引き続き課題である。	B
	③生徒指導	各学年共に落ち着いて規則正しい学校生活を送ることができている。社会のルールやマナーを遵守すると同時に本校の規定を意識する生徒が多く、身だしなみを大きく逸脱している生徒はほとんど見られず、良好な状態が維持されている。高校生活に関する調査の結果を受けて、二者面談やこまめな声かけを随時行い、教育相談部・教育カウンセラー・保健室等の各部署と情報共有をすることで、生徒理解・把握に努めることができた。	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
総合進学コース (進学クラス)	④特別活動指導	蓼科宿泊学習、海外修学旅行をはじめとし、文化祭や体育祭など多くの学校行事が予定通り実施できた。生徒の多くは、学校行事にも積極的かつ向上心を持って取り組んでいた。ボランティア活動や部活動に参加する生徒も多く、興味関心がある活動に積極的に参加することができた。修学旅行の事前学習において、他国の伝統や文化を尊重した上で、自らの意見を伝える表現力を養った。学校行事を通して、他者を理解しコミュニケーションを図ることやクラスの絆を深めることができた。個々の生徒が学習との両立を図りながら、様々な学校行事に参加し、自ら判断して行動することができた。	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
総合進学コース (スポーツクラス)	①学習指導	授業第一主義に基づいて、学年クラス共に生徒にアプローチすることができた。また、生徒たちも授業を大切に、日々の授業に真摯に取り組んでいた。	B
	②進路指導	部活動があり放課後の時間を使えない状況で、LHRや総合探究の時間を活用して面談を進め、各個人に合った進路指導を行うことが出来た。	A
	③生徒指導	服装頭髪や身だしなみ、言動・行動について、土浦日大生としてふさわしい行動ができた。	A
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
総合進学コース (スポーツクラス)	④特別活動指導	体育祭とスポーツ大会では、持っている運動能力を十分に発揮して行事を盛り上げると共に、土浦日大生としての誇りを他コースクラス生徒に醸成することができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
特別進学コース	①学習指導	<p>1 学年：「高校生としての学習習慣をつけ、全国模試で例年以上の結果を残す。」通年の課外授業やサマーゼミ、蓼科サマースクール等を通して、外部模試対策を十分に実施してきたが、例年と比較すると不十分な結果となってしまった。特に数学に弱点を抱えている生徒が多く、今後特に力を入れて取り組む必要がある。また、国語の課外授業の他に小論文対策を希望制課外として実施し、学年の半数近くの生徒が受講するなど推薦入試対策の準備の意識付けをすることはできたと考えられる。生徒個々の進路希望に対して柔軟な対応ができるよう万全な体制を整えていきたい。</p> <p>2 学年：「成績上位層の確立と得意科目成績の伸長」全国模試の成績結果の推移をみると、本学年の課題としている偏差値帯で60から65程度の生徒数の微増は達成できている。その反面、下位層となる偏差値55未満の生徒数は1年間でほぼ変化がなく、新しい課題として来年度以降この層の生徒達の学力の強化が新たな課題としてあげられる。英検の取得については、年度を通して2級取得者の数を大きく伸ばすことはできたが、準1級取得者については微増に留まった。登校日や定期試験の実施日等と重なっていたり、高額な受験費用の面から受験を見合わせたりすることもあったが今後も受験者自体の数を確保していく必要がある。生徒達の授業への取り組み姿勢そのものについては、3学年への進級を意識し始めたからか2025年末以降向上している。</p> <p>3 学年：「盤石な基礎を築くために、基本を徹底し、主体的かつ対話的な学びを実践する。」基礎基本事項の定着を最優先とし、授業内外での反復学習や演習に取り組んだ結果、基本的な知識・技能の理解度は概ね向上した。特に、模擬試験や入試問題演習を通して、問題の構造を意識し、解答方針を論理的に立てる姿勢が育成されつつある。また、解答の根拠を言語化する活動を重ねたことで、思考力・表現力の向上も一定程度見られた。一方で、応用問題においては理解が不十分な生徒もおり、基礎内容への立ち返りと個別のフォローの必要性が課題として残った。</p>	B
	②進路指導	<p>1 学年：「2年次の文理・科目選択で適切な選択ができるように、自分の適性を見極めさせるとともに大学研究・職業研究を進める。」LHR等の時間を利用し、大学の学部・学科について知見を深めた。特に株式会社マイナビの方に進路講演会を依頼し、キャリア教育を充実させることができた。2年次には志望大学のキャンパス訪問を実施し、より大学受験の意識を高めさせたい。</p> <p>2 学年：「理想とする将来の自分像の形成と、それに応じた進学・進路目標の決定」担任陣による積極的な面談の実施をはじめとして、学年やコース、授業担当の教員による会話など様々な場面で生徒一人ひとりに対する進学・進路への意識づけや啓発を行うことができた。将来に対する漠然とした不安を、具体的な進学経路を提示することで「この大学でこの分野を学びたい」という具体的目標へと昇華させた生徒が多くなっている。学校推薦型選抜方式での受験を志望する生徒数でそれが分かるようになってきている。具体的な目標ができた生徒と話すことで他の生徒も考える機会を作っており、各クラスで相乗効果を生んでいる。今後も「学ぶ理由」を明確にする生徒を増やせるよう学年一同で努力していく。</p> <p>3 学年：「選択する進路に責任を持ち、自らその実現に向けて行動する。」進路選択に対する意識付けを早期から行い、個別指導・添削指導・グループ指導を組み合わせた支援を実施した結果、生徒一人ひとりが自らの進路について主体的に考え、行動する姿勢が見られるようになった。特に、推薦希望者においては、志望理由書や面接対策を通して自己理解が深まり、進路実現に向けた準備を計画的に進めることができた。一方で、進路意識の定着に時間を要する生徒もおり、意思決定を促すための継続的な声かけや個別対応の重要性が改めて明らかとなった。</p>	A
	③生徒指導	<p>1 学年：「生徒の多様性を理解し尊重する姿勢を養い、かつ本校特別進学コースへの所属意識を高める。」生徒同士の人間関係に多少の問題は見られたが、問題なく解決する方向に進むことができた。また、特別進学コースに属する生徒としての自覚をもち、部活動等に積極的に参加する傍ら、学業を中心に据えた生活を送ることができている。担任の指導も効果的であり、4クラスすべて良好な学校生活を送ることができている。</p> <p>2 学年：「他者と協働して理想的な生活空間をつくる姿勢を養う。」昨年度散見されたようなSNSを介したトラブル等は、現在(2月)までは発生していない。自らの発言が他者にどのように伝わるかをよく考えて発言や発信をするように今後も引き続き指導していく。</p> <p>3 学年：「個性を生かし他者と協働する姿勢を養う。」また本校特別進学コースへの帰属意識をより高める。」日常的な声かけやホームルーム、面談を通して生徒理解に努めるとともに、教科担当者や保護者との連携を図りながら指導を行った結果、学校の規律を意識し、他者と協働しようとする姿勢が多くの子に見られた。特別進学コースにおいても、学習への前向きな姿勢を維持しつつ、集団の一員としての自覚を高めることができた。一方で、自己中心的な行動や判断に課題を残す生徒も一部に見られ、今後も継続した指導と丁寧な関わりが必要であることが明らかとなった。</p>	A
	④特別活動指導	<p>1 学年：「協働の経験を重ねることで、良好な対人関係を築く機会とする。」希望制課外授業や蓼科サマースクール等の学校行事に積極的に参加する生徒が多く、生徒間の人間関係、学校や教師との人間関係は良好である様子がうかがえる。文化祭や体育祭などの行事においても、友人と協力して作業をする姿が散見され、生徒の協働性の高さが感じられた。</p> <p>2 学年：「様々な思案材料を比較検討し、最終的に自らで考え取捨選択できる姿勢を確立する。」文化祭や体育祭、蓼科宿泊学習や修学旅行など様々な行事を通して生徒達は他者との協働活動を行なった。普段と異なる環境であったために起こる些細なトラブルは散見されたが、いずれも話し合いなどで解決することができた。他者との関わり方を学び、人間性の向上に資する機会とすることができた。</p> <p>3 学年：「各種の活動を通じて協働の喜びと達成感を実感させると同時に、自らの言動や行動に対する責任意識を育む。」各種学校行事や校外活動への参加を通して、生徒同士が協力し合い、達成感や連帯感を共有する機会を多く設けた結果、他者と協働することの意義や喜びを実感する生徒が増えた。また、自らの言動や行動に責任を持つようとする意識も高まり、高校生活の最終段階にふさわしい自覚と態度が育成された。特別進学コースの生徒においては、最上級生として主体的に行動し、後輩の模範となる姿が多く見られた。</p>	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
グローバル・スタディコース	①学習指導	<p>実践的英語力、豊かな教養、批判的思考力、論理的思考力を身につけることが目標である。</p> <p>1年：アクティブ・イングリッシュのプレゼンテーション指導を通じて、実践的英語力を向上することができた。アイヌ学習を中心とした総合探究科目の充実を図り、豊かな教養及び論理的思考力を身につけた。英語能力向上では英検を準1級5名、2級10名が獲得している。</p> <p>2年：アクティブ・イングリッシュのディベートを通じて、高いレベルの論理的思考力と批判的思考力を身につけることができた。英検は1級2名、準1級8名、2級18名が資格を得ることができた。また、探究活動を通じて、生徒一人ひとりがそれぞれの興味関心を掘り下げることができた。</p> <p>3年：総合型選抜入試及び学校推薦型選抜入試の準備・指導の結果、総合型選抜入試及び学校推薦型選抜入試で受験した多くの生徒が合格を勝ち取ることができた。英検は1級3名、準1級12名、2級10名が資格を得ることができ、力をつけて卒業させることができた。</p> <p>本年度からの理系カリキュラム始動に伴い、総合探究科目内容の見直しがなされ、豊かな教養、論理的思考力、批判的思考力を身につけるためにより深化した内容となっている。</p>	A
	②進路指導	<p>生徒一人ひとりの興味関心を掘り下げ、個性を活かした進路指導を行う。</p> <p>1年：オーストラリア短期留学や様々な講演会を通して、生徒一人ひとりが興味関心を深めることができた。特にオーストラリア短期留学では海外の生活文化及び学校スタイルを体験することで、さらに興味関心を深めることができた。</p> <p>2年：カナダ中期留学や実習、また総合探究科目における個人探究が、それぞれの進路選択に繋がるように促すことができた。</p> <p>3年：生徒一人ひとりの進路実現に向け、入試対策を徹底した。その結果、海外大学7名、上智2名、ICU1名、立教2名、青山2名、法政3名、中央大学1名、日本大学3名他の合格実績が出ている。</p>	A
	③生徒指導	<p>将来のリーダーとしての資質を身につけさせる。</p> <p>1年：コロナ禍を経て高校生となった生徒たちが、様々な学校行事やGSコース独自教育活動を通じて人間的に大きく成長した。</p> <p>2年：中期留学や、ディベート大会をはじめとする教育活動を通じて大きく成長した。</p> <p>3年：全ての生徒が進路実現に向けて懸命に努力する過程で、人間的成長を遂げた。</p>	A
	④特別活動指導	<p>学校行事及び部活動への積極的な参加。</p> <p>それぞれの学年行事においてすべての生徒が積極的に参加するようすがみられた。とくに、3年生は文化祭においては、クラス出展部門において優秀賞を獲得するなど顕著な活躍があった。1・2年生も部活動・生徒会活動への参加率が高く積極的な姿勢がみられる。</p>	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
情報処理	①目標の設定について	<p>I. 教職員コンピュータの更新</p> <p>II. Microsoft365等購入アプリケーションの活用研究</p>	A
	②活動の実際について	<p>I. 教職員用PCのリニューアルとしてSurfaceProを導入し、2月下旬に交換した。</p> <p>II. 教職員用PCのリプレースに合わせて、新しい教職員用PCにはMicrosoft365を導入した。</p>	A
	③活動の点検について	<p>I. 事務局と調整しながら、今どきの校務の形につなげられるような機種選定を行い、入札・業者選定・納品・交換と進めることができた。</p> <p>II. 校務用にはマイクロソフトのクラウドサービスを利用することを前提に、Office365・OneDrive・SharePoint・Teamsを新PCの交換に併せて導入した。</p>	A